京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ●三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 二月廿四日
發行兼編輯人 印刷人 山下 [illegible]
京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六六三番

●東洋拓殖會社法案（續）

是に於てか韓國開發の最大問題は一に如何にして善良なる日本の人民を韓國に植付けることが出來るかどいふことの一點に歸着する、それで余は商工農の三者に就きて韓國の狀態を調査して見るに、商業機關は殆ど皆無にして新しき商業を韓國に行ふ場合に於ては悉く外國人の手に待たなければならぬといふことを認めた、日本の商人は從て韓國に這入る餘地が充分にある、現に實際上に於ても京城、釜山、仁川、平壤の如きも萬を以て數ふる日本人を茲に入れて居る、其他の樞要なる商業地に於ても日本人は重に商業民として至る所韓國内の事業に從事して居る、併ながら商業は其性質上非常に多くの人を容るゝ餘地を有しないものである、之を殖民史上に付て考へて見ても所謂商業殖民なるものは未だ一回も殖民の事業として大なる發達を期したことはない韓國の將來に於ても余は多くの人を植付けることに於て商業民に對して多くの望みを持つて居ることが出來ない、殊に其商業の發達が比較的幼稚なる時代に於ては唯其職を深くするばかりである。

工業の側面は商業よりも更に一層甚しくして、殆ど韓國内に之を見ることが出來ない併し工業は舊文明國にして始めて之を興すべきものであつて、新らしき殖民地は母國に對して交換に依つて工業的生產物を得るを最も得策として居る、從て韓國の近き將來に於て工業的日本の移民を見ることは殆ど不可能であると考へる。

最後に農業民は如何であるかと云ふに、今日は内地の事情が未だ整頓して居らない爲めに見るべきものが少い、けれども自分が旅行中調査する所に據れば、其方法の如何に依つては大に之を送ることが出來ると考へる、其手段は然らばどういふものがあるかといふに、先づ韓國に缺げて居る所の要素を具備して居る農民が茲に這入つて、さうして日本の農業を行ふことが出來るのである、然らば韓國農業に缺げる所のものは何であるかと云ふに、先づ第一は其土木思想の不完全である、之に向つては即ち排水灌漑の方法に依つて未開不毛の地を耕地とし、或は比較的安價なる土地を高價なる者と爲す如きである、釜山附近に於ける松下某の灌漑事業の如き即ち其一例である、第二は韓國の氣候研究の結果特殊の作物を擇んで洪水滿潮の害を避けて、短期の作物を水害地に作るが如きものにして、木浦附近に於ける荒蕪地に大麥の耕作及び陸稻の耕作を行ふ如きものあるは即ち是である、第三は耕作物の輸入に依つて農工的利益を擧げんとするものにして、例へば落花生を砂地に作り、煙草を南方肥沃の土地に作り、甜菜を北部乾燥の地に輸入し、改良綿種を以て在來種に代へんとするが如き、麥酒原料用大麥を作つて日本に輸出せんとするが如き皆其一例である、第四は在來の農業法を僅に之を改革することに依つて生產を擧げんとするのである、即ち米の種類改革の如き野菜、果實の改良の如き、養蠶を發達せしめんとするが如き即ち是である、要するに農業に原料を供給することに依つて韓國の農業を開發することが出來る、即ち肥料製造法を改良するが如き販賣肥料を使用して生產を高めんとするが如き即ち是である、第五は生產方法を改良することに依つて韓國の農事を開發せんとするのである、即ち在來用ひて居る農具を更に精良なるものとして耕作費を減少するが如き、生產物精製の法を變じて精良なる農產物を擧げ輸出に適當ならしむるが如き、例へば精米の如き即ち是である、之を要するに日本人が韓國に這入つて益を得るの餘地が尙ほ多くあつて韓國人が又是に依つて益するのである。（完）

●黒龍線竣成期

黒龍江線はストレテンスクより烏蘇里線の終點たるハバロフスクの對岸に至る總延長二千百四十露里工費總額二億一千七百四十六萬留にして竣成期は千九百十二年の豫定なり而して東西兩地區及支線に區分し東部地區はハバロフスク對岸より中央ブラゴエシチエンスクの北方ゼーヤ河畔のゼイ驛に至る一千三百四十三露里とし工費一億二千五百萬留、西部地區はゼイ驛よりストレテンスクに至る六百九十八露里にて之にゼイ驛よりゴエシチエンスクに至る支線百九露里を合し其の工費九千九百四十六萬留とせり以上の工費中前年度に於て三百萬留を支出し本年度は東部地區に九百萬留西部地區（支線共）に三百萬留にして明年度の豫定額は千五百萬留なり去れば來年度後十二年に至る殘餘の四箇年間に平均約五千萬餘留宛の年度割額を支辨せざる可らず然も露國交通省豫算書の總支出額及び他省との比較に見る時は同鐵道の爲に五千萬留を支出せんことは覺束なかるべく隨つて千九百十二年迄に竣工を見るべきや否や疑はし又ハバロフスクに連絡すべき黒龍江架橋は約四百萬留なるも當分は渡船を以て連絡せしむべしといふ兎に角該線工事は今後とも其の豫定計畫に幾多の變化を來す事を脫れざるべし

●外國貿易旬報（隆熙二年三月中旬關稅局調査）

區分	本旬分 圓	一月以降累計 圓
輸出品價額	三五三、六〇八	二、九〇三、九〇三
輸入品價額	八〇三、五七五	六、九九三、八二七
合計	一、一五七、一八三	九、八九四、七二九

右貿易額の港別左の如し

港名	本旬分 輸出額 圓	輸入額 圓	計 圓
仁川	七六、三九九	二六二、一八九	三三八、五八八
釜山	一四、三二一	一四三、七五六	一五八、〇七七
元山	四三、七五六	九四、七七四	一三八、五三〇
鎭南浦	五九六	六、六〇五	七、二〇一
京城	…	九七、六二〇	九七、六二〇
群山	五五、二〇八	二一、五二八	七六、七三六
木浦	二六、〇〇七	二七、一七四	五三、一八一
馬山浦	一三、四六六	一八、八三〇	三二、二九六
城津	二、九二六	三二、四三三	三五、三五九
新義州	九、九九九	六、六六六	一六、六六五
計	三五三、六〇八	八〇三、五七五	一、一五七、一八三

輸出重要品表

品名	本旬分 圓	一月以降累計 圓
米	一八二、三三三	一、三〇〇、二四八
大豆及小豆	一〇四、九一三	九五〇、八七三
鮮魚乾魚及鹽魚	四、八八一	五九、七一四
人參	一六〇	三五六
生牛	三五、八五二	一八八、七一〇

輸入重要品表

品名	本旬分 圓	一月以降累計 圓
食鹽	二、八六二	二〇七、五三八
濟酒	一三、三二七	九六、一七一
打綿	二四、九二〇	六一、〇八二
生金巾及シーチング	六五、三六八	九四七、三五三
日本木綿	二、六三一	二三四、〇八四
煙草（葉卷を除く）	二、三六九	三一〇、四一六
石油	三三	四、三八〇
マッチ	一〇、二四四	七九、六九一
砂糖及精糖	一五、三六四	一二四、七四四
石炭	一三、八四四	一五〇、九六六
綿絲	七三、五〇一	四〇七、五六〇

●ステツセル裁判（三）

高等軍事裁判第八、第九兩回は專ら旅順に於けるフオーク將軍の行動に關するものにて、開城の件には重大の關係なきを以て茲に省略し、直に第十回に移りてステツセルが衛戍司令官と共に旅順に止まりしが爲に包圍中の要塞內に起りし紊亂の狀態を見ん而して裁判進行と共に闡明せられたる事實によればステツセル、アレクセーエフは勿論クロパトキン將軍も亦責任を脫れ得ざるものゝ如し

▲スミルノフ中將の陳述

判士長は先づ、ステツセルとスミルノフの權限を制定せん爲千九百四年四月十四日（二十七日）太守より出でたる命令第三百三十九號に就て、スミルノフに向ひ『此命令は貴下に取りて如何なる結果を有せしや、又何が爲に與へられしや』と問へばスミルノフ將軍は例の如く頗る確信の態度を以て沈着に且精細に答へて曰く、

『太守が此の指令を與へしは是れステツセル將軍が余の權限內に干涉せる事を文官の報告に依りて知りたるが爲なり。此の指令は余に與ふるに、旅順及び其の區城內に於ける總督の權を以てしたるものなり。然かもアレクセーエフ太守の未だ旅順を出でざるに此の指令はステツセルに依りて犯されたり。又旅順より貨物の運搬を許可することも余に一任せられしが。ステツセル將軍は自から此の事を爲したり。余は彼れの行爲の不法なる事を彼に證示したるも彼は余の參謀長が余の許可無きの故を以て一人の砲兵大尉に貨物運搬の認可を與ふることを肯んぜざりしが爲、余の參謀長を拘留せんと威嚇したり。要塞憲兵隊は余に服從したるがステツセルは余の許可を得ずして之を老鐵山に移し、其の隊長ミケラツゼ公に再び旅順に來ることを禁したり。又日本の軍艦をして火影に依りて我が位地を知らしめざらんが爲に夜間の砲火を閉づべしとの余の命令を同じミケラツゼがステツセルの家族へ傳へしが爲、ステツセルはミケラツゼを拘留に處せんと威嚇したり。船渠建造の爲職工に支拂ふべき賃金を要せし時、露淸銀行に餘裕なくステツセル將軍の軍團金庫には餘裕ありし故余及び余の參謀長並に要塞技師長は其支出を求めたりしにステツセルは余等が其金額を私用に供するかの如くに之が支出を拒絕し、コンドラテンコ來りてステツセルに強請するに至りて僅に承諾したり。ステツセルは余が戰略の首位に置きたる防禦の事に干涉したり。彼は余に交涉するをなく軍事豫備品、糧食及び技術用の材料を消費し、爲に余の計畫は紛亂せしめられたり。加ふるに彼れは余が大なる價値を附したる第二防禦線の工事を中止することを命じたり。旅順に於て『ノーウイ、クライ』なる新聞發行せられ、其記事は軍隊の士氣を鼓舞し且娛樂をも與へしが、一度余に關する記事の揭げらるゝや、何故か新聞は俄に發行を停止せられ、其の軍事通信員は拘留せられ、且旅順に於て起りし事件を報道する事能はざらしめんが爲に其の藏せし日記、書類、記錄に至る迄悉く沒收せられたり。衛生部に關する余の措置命令は一般の指揮命令と共に廢止せられたり。例へば余は大運病院を砲火の下より第二十八聯隊の營舍內に移せしに、ステツセルは之を探知して直に該病院をプーシキン學校內に復歸することを命じたり。凡て以上の妨害は余をして適切に防禦の策を施す能はざらしめ卻て敵の襲擊に資したり……』。

ステツセルは之に對し、曖昧にして而も粗暴なる調子にて說明して曰く、

『余は、副官に許されしだけの事は余にも許されしことゝ思惟したり。余の命令に干涉せられし時、余は之を忍ぶを得ざりき……』。

●討伐隊逸話（五）

高橋侍從武官に呈出せる

賊魁金承在の決心

四十年十二月中旬黃海道海州警務署は當時該道を橫行せる暴徒の首魁金承在を捕縛したり金は韓國の學者にして詩文に長じ進士の學位を有するものにして嘗て海州附近に學堂を開き子弟を教育しありしが客年八月遂に彼も亦動亂の渦中に沒し自ら將として三百餘の暴徒を集め橫行を企てたり

十一月下旬金及其部下は我海州守備隊の爲め該道苔灘（海州西方約九里）に於て擊破せられ一戰血に塗れ其部下の過半を失ひ其他の大部は四散したる以來再び之を集收することを得ず加之銃器彈藥缺乏を來し又如何ともすること能はざるに至りしかば金は之が補充の途を講ぜんが爲めに單身海州に入り將に仁川に航せんことを企てたり然るに海州警務署の探知する所となり遂に捕へられて幽囚の身となれり金は一見愚夫の如きも眼光炯々人を射之を熟視するときは決して凡庸にあらざるを知る警務署は再三再四尋問取調を行ひたるも彼は唯だ單に不知を以て答へ百方手を盡したるも遂に一言を語らざりしと云ふ

時恰も警務署の囚人は暴徒其他の者を合して百餘名に達したりしが金は此等の囚人と協力して破獄を圖らんとするの邪心あることを看破したるを以て警務署は之を未前に防がんが爲め海州守備隊と協議し金及其他の重もなるもの數名を該隊に移し以て援助を請求したり

海州守備隊長金本中尉は金を召し尋問し且つ曰く『汝苟も黃海道暴徒の長となり三百餘の頭首と仰がれたるもの此期に及んで尙欺僞以て其罪を逃れんとし且つ破獄を計らんとするの企を爲すが如きは本懷にあらざるべし宜しく速に其實を告げ潔く刑に就くこそ至當なれ』告げて曰く『汝と共に事を起せし中京七は汝の捕へられたるを聞き落膽劍を投して曰く金既に捕へらる我事終れりと遂に逃れて某島に去れりと予は中の居所を知るを以て遂からず彼も亦予が面前に見る時あらん汝若し彼に告ぐるの辭あらば予は汝の爲め其勞を取るに吝ならざるべし』金答て曰く『予元來中京七なるものを知らず雖然彼亦義軍大將たるに於ては金承在なる者嘗て義軍大將として刑に處せられ怨を呑んで從容死に就きしことを傳へられんことを請ふ』中尉曰く『汝己に罪蹟充分なるを以て假令自白せざるも明日刑に處せん如何』彼曰く『予は己に決せり將軍予に向ひ百万の言を勞するも亦一言を語るを欲せず』と從容自若たりしが當夜彼は他囚と協力留置所を破り逃走を企てたりしが哨兵の知所となり遂に射殺せられたりと云ふ

小說 絃のみだれ（百三）

永井櫻園

清糸が歸つて往つたのは、モウ彼是十時半であつたが、勇五郎は傷の痛と、淸之助の一件とで、なか〳〵睡られぬまゝ、若や淸之助が歸つては來ぬかと、戶も閉めやらず左つ右つ眼前迫る將來の生活問題に煩悶するのであつた。

『店の品物を殘らず大川へ渡して了へば、先づ道具の方は迚も資本が無くて、以前はどの店を張る事も能ないし、當分閉店するより外に手段は無い、すると、お縫の收入で生活して往かなきやならないがそのお縫が姙娠となつては、これも先つ產むで了うまでは、金儲け所が却つて金子が要るくらいなもんだ。然うすると、お縫が丈夫な軀になるまで、小半歲は奈何しても私が働らいて糊口するより外無いが、こりや、飛んでも無い事になつたわい。斯麼事になると知つたら、那麼贅澤するんぢや無かつたに節儉にさへすれば、月に二十と三十の金子は殘されたものを……ア、馬鹿な事したわい、なるほど何日やら彼女が意見を仕くさつたのは斯う云ふ事になると、自分で知り居つたからだな、これを思ふと人間は貫箇金子の有る時節儉して、不時の準備を仕なきやアならないわ。』

と、それからそれと思案に耽る中、早くも十二時を過ぎ一時を打つたので、痛さを忍んで戶締などして、又床に就いたが、彌張目が冴ね渡つて睡られない、かくて永い夜をまんじりとも爲す、徹宵種々の妄想と空想に耽つて、明方になつて漸く疲勞の結果、痛睡に就いたが、太く精神を用つた故か、も忘れてグツスリ熟睡して了つた。



すると、トン〳〵と戶を叩く音がするのでハツと目を覺して見ると、戶の隙間から日が射して、時計は將に九時ならんとして居る。又トーン〳〵戶を叩くので、漸く跛足を曳きながら表戶を開けて見れば、隣家の內儀さんが、見知ぬ若い男と立つて居る、

『ツイどうも寢過しました、昨夕が余り遲かつたもんですから、何か御用向でしたかね。』

と、欠伸しながら問く內儀さんはニコ〳〵として、

『いゝゑ、何も用事が有る譯ぢやないのですが、此方が貴方にお目に懸りたいツてモウ三十分も前から待つてられるので、何日も早起の貴方が、如何にも遲いから何うか變つた事でも有りやア爲ないかとそれで起して見ましたのよ、ほゝゝゝ。』

『やツ、然うでしたか、そりや有難う……今頃まで寢るなんて、不思議に思はれるも有理です、モウ九時ですもの……』

云つて更に訪ねて來た客に對ひ、

『失禮ですが暫くお待ち下さい、只今戶を開けますから……』

と、勇五郎は中に入つて雨戶を明ける、若者は內儀さんに禮を陳べ、內儀さんは會釋して歸つて往つた。

『どうもお待せ爲ました、取散したまゝですが、お入り下さい……』

勇五郎が辭を掛けると、若者は、

『お寢み中で失敬爲ましたね。』

云ひつゝ家內に入る、勇五郎は道具でも買に來た客と思つたので上框に座蒲團を出し

『どうぞお掛け下さい、何か道具でも御入用でございますか。』

『いゝゑ、少し貴方に御相談申したい事があつて參りました。』

▲專任大臣新任

（二十五日發）今朝宮中に於て親任式を行はせられたり千家尊福男（東京府知事）は司法大臣に堀田正養氏は遞信大臣に任せられ松田正久氏は大藏大臣專務となり原敬氏は兼官を免せられたり

●對星樓茶話

△九州の奇人片岡鶴君糖尿病を以て逝去せり、君は奇異なる人物にして其劃策する處多くは人の意表に出で世態人情と遠かり特更らに迂回したる人物なりき、君の事業は東京青年會の組織及び自活團の創立にして念佛庵先生によりて士氣奮勵を鼓吹し滄海先生により詩書を學びたり韓に來遊四年志す處經國の大事に在りしと雖も、散漫なりし君の企劃は遂に克く成らずして去れり而かも珍書名著を集めて經國の資に貢したるもの少からず、惜しむべき奇人なり。

△青柳南溟君は宮內省の腰辨當なれども其著殖民策を讀むものは君が眞摯なる朝鮮研究者にして帝國の殖民政策に多大なる識見と抱負ある當世の有志なるを推重すべし、吾人は南溟君の好著殖民策を天下に紹介す

△一日某官人を訪ふて暴徒鎭壓を語る、官人曰く暴徒の狀勢衰へつゝあり、余曰く只其れ討伐すべきの暴徒のみ衰へつゝあり。

△朝鮮人なればとて決して油斷ならぬぞかし、彼等は內に於ては暴徒となりて火器を執り、外に在りては言論機關を創設して投機的外交を試みんとせり。

△伊藤公近く歸任すべしと、是れ所謂謝安出でずんば其奈蒼生と筆法なるべし。

△最近の東京電報に拓殖會社の總裁に目賀田男爵、宇佐川中將、山根中將の名あり、何人か果して此大任を負ふ、吾人曰く此會社を動かし得るの人物は實に英雄なり、實に偉人なり。

△幸福進歩に伴はざる愛國心などを鼓吹せる韓人あり、作病して要談の來客を謝絕すると均しき行爲なり、之を稱して永久的暴徒と謂ふ。

△宮廷に近接して太皇帝の權利回復を口實とせる韓人あり、之を稱して一時的暴徒と謂ふ二者則可警戒賊徒也。

△暴徒鎭壓に關する帝國の追加豫算費目に曰く百九十五萬圓なりと。

△宮殿の移轉は政變の一部分也。

△宋秉畯君は關門邊に於て高麗史の第一頁を讀みつゝありとの報あり、恐らく其最終のページに非ざる乎。

△文獻備考一千部を印刷局にて目下刷行製本中なり、之を以て李完用內閣の最大功蹟と爲す。

東京電報

▲駐日淸公使任命

胡惟德は日本駐在公使に任せられたり（二十五日發）

▲陸奥丸の溺死者

函館沖にて沈沒したる陸奥丸は乘客二百六十名の內生存者は三十名にして船員四十二名の內生存者は十名に過ぎず秀吉丸も損害多大なり

▲李學部の參內

韓國學部大臣李載崑は明日參內謁見する筈なり

▲拓殖會社案可決

東洋拓殖會社法案は今日衆議院にて日程を變更して此を議事に附したるが島田三郎氏の反對演說あり次で小川平吉氏の贊成演說あり終りに松田藏相登壇して贊成を乞ひ大多數を以て可決したり（以上二十四日午後發）

雜報

●國有林野處分審查會

森林法の實施に伴ふ國有森林山野及び產物處分規則は近々勅令を以て發布せらるゝ筈なるが之れと同時に國有森林山野山處分審查會なるものを新設し會長は農商工部次官を以て之に充て委員は農商工部勅任官或は奏任官三人內部勅任官或は奏任官三人度支部勅任官或は奏任官三人合計九人とし臨時必要なる場合は此の定員の外に三人以內の臨時委員を命ずる事を許し左の事項に付審查決議すと云ふ

一、國土保安上又は國有森林山野の經營上國有保存の必要なき國有森林山野個所の決定
二、公益上特別の事由を生じたる場合に於ける國有保安林の解除
三、國有森林山野の隨意契約に依る賣却
四、國有森林山野の交換

●東宮武官府官制

二十四日東宮武官府官制裁可ありたり東宮武官府に左の職員を置く

武官長一人將官武官二人領官一人尉官一人主事三人（下士或は判任文官）

●棉花栽培所と種苗場

農商工部に於ては三月十四日より同部所管の臨時棉花栽培所及び種苗場を木浦に設置したり

●露國の東亞殖民

露國政府が西比利亞に向て年々殖民に鋭意しつゝあるは今に始めぬ事ながら露國第三議會に於いて農務大臣ワシリチコフ氏が發表せし統計的材料に據れば千九百五年に於ける移民總數は一萬一千戶即ち六萬六千人なりしが千九百六年には三萬戶十八萬人となり千九百七年には六萬八千五百戶四十萬人を移植したり尙千九百八年度には七萬戶約四十二萬人を移植する豫算なり而して此の移民費用として國庫より支出する金額は千九百五年度に二百五十萬留なりしも千九百六年には五百六十萬留となり千九百七年には千三百五十萬留に增加し千九百八年には千九百萬留を計上するに至れり又一家族が政府より給與を受くる金額は既往十三年間を平均すれば一ヶ年約二百二十二留の割合なりと露國が戰敗後東亞植民に汲々たる其の志望の大なる決して等閑視すべからざるなり

●ス氏遭難情況

前日曜日夕四五名の韓人スチーブン氏の宿所米國桑港（フェアモント、ホテル）に訪問し日本の韓國に於る施設に關する或新聞紙の記事を指摘し右記事は同氏より出たるものなるやを問ひ同氏の然りと答ふるや右韓人等同氏に毆ち掛りたるも居合せたる人々に取押へられ別に害を加ふるに至らずして止みぬスチーブン氏は深く之を意に介せざるのみならず暴行者の捕縛せられざる事を希望せり而して廿四日朝同氏は旅館を出で華盛頓行の客車に搭せんが爲め待合所に赴き自働車より下車するや三四名の韓人突然同氏を取圍み其中の一人先づ同氏の面部を毆打し次で彼等は拳銃を連發射擊し遂に同氏は肺部に二丸を受け負傷は重き方なるも醫師は目下の處生命には危險なかるべしと云ふ又右韓人の一名は同類の發したる彈丸に中り恐らく絕命すべく同氏に負傷せしめたる韓人は直に縛に就きたる旨其筋に電報ありたる趣きなり尙同氏の旅館で暴行を加へたる韓人等と待合所にて兇行を働ける韓人等とは別人にして同氏に負傷せしめたるは平壤人「チウジンカン」なる者にして銃丸に當りたる韓人は「デンメイウン」と稱する者にして同氏遭難の場所には小池桑港總領事も同行し居たりと

●巡查採用試驗終了

過日來內部警務局に於て施行せし巡查採用試驗は一昨日を以て終了し本日其の成績發表の由なるが合格者は三十七名にして何れも十日間數習の上各地方警察署詰を命ぜらるゝ筈なり因みに今回の採用試驗は內部に於て未だ巡查講習所の設備なきを以て一般希望者より之れを採るを得ず曾て巡查の職を奉じたるものにして罷職後日淺く在職中精勤證書を受け居れる者を撰拔したるなりといふ

●僞造白銅貨

平安道方面に於ける僞造白銅貨の密輸入は目下中々に盛にして輸入者は大阪に連絡を有し居る者の如しと云ふ

●交代兵の上陸

交代兵八百餘名を載せたる咸興丸は昨日仁川に入港する筈なりしも濃霧の爲一日遲延し本日入港すべし又明日入港すべき山城丸にては交代兵六百五十三名上陸する筈なりと

●燈臺の新設

仁川燈臺局が鎭南浦方面に數ヶ所の燈臺建設に着手したることは既報せし所なるが尙同局にては韓國西南岸方面にも燈臺を新設する計畫なるが下鳥島、港內外冬外串の三ヶ所には過日仁川稅關の小蒸汽にて其材料を輸送したれば近々中に右工事に着手する筈なりと因に冬外串に新設さるべき燈臺は高さ八十尺にして從來の最高燈臺に比して優に二倍の高さなりと云ふ

●月尾島見張所開始

仁川稅關が曩に月尾島に新設したる見張所は寒氣の爲暫く閉られ居たるが愈々本日より監視人を派する筈なりしといふ

●虎岩洞の討伐

全羅南道長興警察分署巡查六名は三月十四日賊狀偵察のため南平郡道村面を進行中騎兵の一隊に遭ひ其の五騎と共力して賊徒を搜查せしに十五日午前十一時頃其の一團綾州郡虎岩面虎岩洞に宿泊せるを探知し急行せしに彼等は二戶の民家に分宿し居る事判明せしを以て直ちに突擊を試み交戰約三十分間にして潰走せしむ賊徒の總數約四十名にして死屍十四を遺棄せり我一行中の巡查部長瀧下十藏敵彈のため右手掌に貫通傷を受け又腹部に擦過傷を蒙れり施術の結果食指一本を切斷し目下木浦病院にて治療中なりと云ふ

●瓮津郡の暴徒

賊魁許德川の一派瓮津郡馬山面地方を根據とし掠奪を逞ふするを以て賊狀偵察のため同地駐在巡查二名は憲兵伍長以下三名と協力し本月十三日午後九時目的地に達し約百五十名の暴徒同面九里洙洞に集合せるを知り翌十四日午前五時宿泊地を出發し同六時頃敵前百米突の地點に散開し攻擊を開始せしに彼等は周章狼狽を極め四散せり此の戰鬪に於て賊の死者三名負傷者約二十名にして銃器其他火藥若干を鹵獲せりと云ふ

●竹山の暴徒

三月二十日竹山郡守趙鏞夏の報告に依れば昨今に至り暴徒の殘黨夜間村落を橫行し良民を苦め一方諸種の稅金及び上納米を集め置かしめ之を掠奪せんと企て各面長に宛て威嚇的文書を送り來れり

●三登守備隊の夜襲

平安南道三登（平壤東方）守備隊下士以下七名は三月十四日三登東北約四里大谷面上洞附近に於て約八十の賊を夜襲し其七を殪し四を負傷せしむ鹵獲品小銃五

●賊魁生擒

飯沼少尉の率ゆる一部隊は三月二十一日石沙村（加平西方約三里）に於て賊三を殪し賊魁朴來鳳を生擒せり

●全羅北道の自衛團

礪山、高山の兩郡に自衛團の組織完了し其の效果の見るべきものあり初め同團規則發布せらるゝや當時兩郡共暴徒出沒の中心なりしより良民自衛團の必要を覺り之が組織を望める際恰も援護會員巡回し其の勸誘を試みたるより諸容易に纏り團長以下の役員を撰任し本年一月以來夜警其の他の事務に從事しつゝありて礪山郡西二面自衛團の如きは本年一月暴徒一名を逮捕し爾來其の侵入を防止せる事一再に止まらず又北三面自衛團も三月十七日暴徒一名を逮捕したる等其の他の各團も事故ある時は巡查駐在所に急報し何れも敏速に活動し居れりと云ふ

●賊一進會員を殺害す

三日廿日夜廿余名の賊水原郡土津面板橋居一進會員金基順及裴成順宅に侵入し兩人を捕縛し西木北面玉谷に拉去し之を殺害し裴成順の妻も亦捕縛し栗北面長宅に來り此女の監禁を命じ若し失ふ時は洞民悉皆屠戮すべしとて立去りたり

●賊就縛

開城北部に暴徒數名潛伏し居るを探知し部下巡查をして大搜查を決行せしむるに果して潛伏し居るを發見し五名を逮捕せり彼等の行爲は頗る猛惡悍猾なるものたりしと

●實業同志會の大活躍

仁川實業同志會に於ては去る二十二日午後八時より協議會を開きたるが其決議事項を聞くに左の如し

一、會員を募集すること
二、會員にして門標を揭げざる向に對し此際至急釘付けせしむること
三、京龍其他の地方に對し本會の旨趣に贊する團体に對し同一行動を採る樣連絡を圖る爲め機を見て委員を派し交涉せしむること
四、京釜、京義、京仁線の沿道各地方商人の仁川と取引する者に對し本會の旨趣並に會則等を郵便廣告を以つて一々發送し受拂期日は會則通り格守する樣照會狀を發すること
五、前同樣の地方商人實業團体又は自治團体等に對して本會の旨趣を廣く各地方の商人に示達し遵守せしむる樣盡力を依賴すること
六、會員又は非會員にして本會旨趣を誤解せる者尠からず又四圍の事情に制せられて尙勵行すること能はざるものに對しては一々說明を爲し本月の節季より着々實效を擧ぐる樣文書を刊行して配付し時宜に依りては遊說を試むること
七、仁川の商人たると非商人たるとを問はず在留者に對して同志會長より注意警告書を配付して自他共に勵行を期すること
八、商業會議所議員又は民團議員は此弊習を打破するの卒先者たるべき信望を有するものなるを以つて本會に加入の議を交涉すること
九、敷島遊廓に於ては支拂期日を十五日と一定し居りて本會の旨趣と相容れず遊廓は純然たる現金主義を實行し居るに拘らず支拂に付ては十五日と一定せられては商人の迷惑すること尠からざるを以つて本會同樣五日と限定せんことを交涉すること
十、信用組合組織に就き調查を遂ぐること
十一、會員の募集會費の徵收集金及督促等の事務を熊倉覺太郎君に囑托すること

●日本麥酒の商況

本品は例年昨今より漸く色付き四五月と日を經る每に客足繁く六七八月は需要の最盛季にて九十の兩月は其賣高四月頃と比敵し十一十二月とならば其需要者最盛季の十分の一二强に過ぎず一二の兩月は更に甚しく殆んど顧客の跡を絕つに至るを常とす而して韓國に於ける本品の需要は日を逐ふて增加し昨年は一昨年に比し約二割方の激增を示し更に本年は昨年の賣行高より二割增の豫想なり從來京仁地方に需要さるゝ麥酒の種類は頗る多きも朝日札幌最も賣行好くキリン甲、ビースは之れに次ぎ惠比壽東京等に至つては、捌け極めて鈍き模樣なり而して一昨年はサッポロの賣行き朝日に比して遙かに劣りたるに昨年は反つて好況となれり今試に昨年一月より同十一月末に至る京　賣行高を示さんに

	朝日	札幌	ビース及スベシアル	エビス札幌黑其他	通計
宅	三、一〇〇	四、九六四	二七五	八五	八、三三六
藤木	三五三	一、七二〇	九五	〇	二、一六八
鬼頭	七二〇	一、五七〇	一五	五四	二、三五九
增本	一四〇	三五〇	五	〇	四九五
宮田	八五〇	一、一三〇	三六	四〇	二、〇五六
綿屋	一、〇八〇	三、九九九	四〇	七〇	五、五二〇

比較的高價なるビース其他の京城へ多く需要されず朝日の仁川に多きは即ち兩者の生活狀態が異る爲めなり

從來本品の販賣店は區々獨立して互に競爭せる結果販路擴張上多大なる障害を與へるも大日本麥酒會社製品販賣店は本年より組合の組織を改め各自權利義務を分擔して會社へ信認金壹萬圓を納め從來の販賣高を標準として損益分配を規定し一方組合品以外の販賣店に對しては特別廉價割戾し賞與金等によりて奬勵するなど種々改善する所ありたれば本年は目覺しき活躍を見るに至るべく其他キリン、甲等の販賣店はあれど大日本麥酒會社の製品に壓倒されて目下屛息し居れるが前記の如く韓國に於ける斯界の前途は頗る囑目の價あることなれば此等も孰れ捲土重來の勢を以つて馳驅するに至るべく久しく平和なりし斯界に波瀾の起るは遠き日には非ざるべきか

●開港紀念有志總會

豫報の如く仁川開港紀念祭に就き昨日午後四時より有志總會を開きたるが來會者は當地第一第二流の各商人を網羅し出席者總數殆んど二百名に達したり尙ほ本日は民團議員側の相談會を開く筈なりと云ふ

●本町座の演說會

目下來京中の日本基督敎組合會長宮川經輝氏及び前京城學堂長現神戶同敎會牧師渡瀨常吉氏一行の本町座に於ける大演說會は既記の如く一昨日午後七時半より開會されたり先づ京城基督敎會員岡田氏開會の旨趣を兼ね今回集中傳道に就き述ぶる所あり次で渡瀨牧師の時代の要求、宮川牧師の基督敎の大使命と云ふ題下に滔々熱心に演說せられたれば滿場の聽衆は熱心に謹聽し大に感動を惹きたり散會を告げたるは同拾時頃なりし當夜は聽衆非常に多く八時頃は滿場立錐の地なきといふ有樣にて遲れて來る人々は已を得ず入場を謝絕するに至りたるが近頃稀れなる盛會なりし

●學校設立認可

京城民團立高等女學校及び附屬幼稚園第二尋常高等小學校設立に就て統監府に對し設立認可申請中の所一昨日理事廳を經て認可されたり因みに附屬幼稚園の園兒は五十名の豫定なりと

●龍山指定學校

公立龍山尋常高等小學校は文部省令に依り指定學校申請中なりしが今明日中に認可さるべしと云ふ

●井上書記官出發

日本宮內省事務視察を命ぜられたる宮內府書記官井上雅二氏は豫報の如く昨日午前八時五十分南大門發の列車にて出發されたり當日南大門驛には宮內府官吏其他有志者の見送り頗る多かりし尙ほ禮式官劉燦氏も同じく同行し出發したりと云ふ

●佐藤高島兩氏歸釜

過日來滯京中なりし釜山埋築會社取締役佐藤潤象、同理事高島義恭の兩氏は昨日午前八時五十分南大門發の列車にて歸釜されたり

●松井局長の招宴

松井警務局長は一昨廿四日午後六時より統監府各參與官書記官秘書官等の高等官を天眞樓に招きて宴を設けたり尙明廿六日同局長及び丸山警視總監は岡崎十三師團長以下參謀官其の他將校及び明石憲兵隊長以下各將校並に法部書記官以下の高等官地方裁判所長岡鐵道運輸部長岡本通信管理局長代理其の他を日本人俱樂部に招待すと云ふ

●證書授與式

京城民團立尋常高等小學校及び寅子紀念幼稚園私立京城高等女學校は既報の如く本日午後二時より日の出町小學校に於て卒業及び修業證書授與式を擧行するを以て夫々案內狀を發したり尙ほ本島コマ子は金拾圓を西崎嘉七は鉛筆十二打墨二十挺を同式へ寄附したり

●病兵の輸送

本日仁川を出帆する御用船大禮丸は京城衞戍院病兵八名を乘せて門司及廣島に送附する筈なりと

●近事片々

▲拓植　總裁候補陸軍中將宇佐川一正圓顱豐頰眉目淸秀豪放磊落亦軍人政治家の一人
▲韓國　公使館附武官として公使小村を助けて漢城政界腕利の評ありき總裁の貫目あり
▲韓國　亡命者にて四谷伊賀町の宇佐川邸に出入し庇蔭を蒙らざる者無韓國通の一人
▲陸軍　本省の吏務に參して桂侯に信せられ亦寺內子に寵用せらる桂系敏腕の軍政家
▲忠淸　全羅の比較的安全の在住せる邦人暴徒蜂起以來半分以下に減ず尙續々減少す
▲暴徒　危害の憂なき所にても萬一を氣遣ひ引上る妻子眷族のある者は無理ならず噫
▲地方　駐在の日本人官吏韓國民より第二の虎として怖れらる暴狀却て韓官に優ると
▲地方　日人官吏の暴虐は實情評判以上也と早く取締らねば蟻穴壞堤の悔あらむ可戒
▲日人　官吏にて借金せるもの目賀田と井上雅二のみ也と之を以て其間の消息知らる
▲每日　申報日本元老大臣會議の結果顧問制復興日本官吏一齊撤止說有と揭ぐ無論譌
▲斯る　事は到底不可得有事也亦是申報獨得の報道されど現今の狀態顧問制復興可也
▲加波　山殉難者追悼會芝靑松寺に開かる會する者坂垣河野杉田等百有餘名頗る盛會
▲當時　を追懷すれば悲愴感慨獅子の如き有志者今や猫の如くなる時勢の變化の爲乎
▲自由　黨當年の暴動は粗暴とは云ひながら儒夫を起たしむる慨あり其意氣こそ頼し
▲遞相　園遊會に陶庵首相とお鯉の親密を見て春雨に（鯉）戀故濡る首相哉とぬたくる
▲林田　翰長衆議を排して春雨に（鯉）戀故濡る（草履）總理哉の修正案を出して可決す
▲お鯉　と首相と何の關係ある桂侯首相當時お鯉を寵し陶庵首相亦お鯉を寵せんとす



事實談 花の根ざし(七)

栗嶽庵主人

靜子の病氣は日增に重るのみ、老夫婦は非常に心配して、夜も碌々に眠らず看護に手を盡くした、困るのは醫者である、群山には碌な醫者は居ない、次郎の留守に若しものことがあつたなら大變である、今は費用のことを彼是いふ時でない、仁川病院の院長を賴むことゝして懇々使を出した、三日目の夜院長は來られた、直に診察を請ひ其結果、眞症の腸窒扶斯で今が殆ど病勢の頂上である、注意を怠つてはならぬ、藥は所方書にして看護の手當等親切に示して歸られた、この一日二日さへ無事に經過すれば跡は好な方であるとの院長の談であつた老夫婦は之を樂みに示されたる如くに看護を怠らぬ、流石の重病も老夫婦の親切なる介抱と、醫藥とで漸次に快方に赴くのである、それより一週間斗り經過したるときには、熱も余程下がりて血色も少しくよくなつてきた、老夫婦の喜びは譬へやうがない靜子が眠りより醒めたときに老夫婦は枕頭に坐りて

『妻君、今日は大分に宜しい如だが、どうですな、花崎さんからも今朝手紙がまゐりました、貴女見ますか、私讀みませうか。』と手紙を其處に置く、靜子は瘦細りたる手に靜にそれを取りて

『妾、ぼつ〳〵讀みますわ、今度は一方ならぬ厄介に預り、妾全く御夫婦のお蔭に命拾ひを致しました、この御恩は決して……』

と云はんとするを爺は制して

『左樣なことは云はでもよい、病氣のときに世話をするのは當り前さ、それよりもまづ手紙を見なされ。』

と云はれて、靜子は何時もながら老夫婦の親切に感じてか亦も眼を濕すのである。云はるゝまゝに手紙を開けば

拜復 御書面忝なく拜讀仕候、靜子事、腸窒扶斯に罹り候由、何かと一方ならぬ御世話樣に相成候事と存じ遙に感謝致し居候、本症窒扶斯とあれば素より輕からぬ譯殊に傳染病なるにも不係能く御看護被下候事深く感銘仕候、所用急ぎ取片付歸韓可致候得共亦更に出直す譯にも參らず候故今四五日は相懸り可申さ存候、何卒々々幾重にも御世話御願申上候御手紙拜見の上早速靜子の母にも兄にも告げ置候得共、餘り心配致してはと存じ腸窒扶斯なることは告げ不申候、マラリヤ熱ならんと申置候、御夫婦樣の御蔭にて必ず全快可致事と信じ居候、何れ近日歸韓致し御目に懸り御禮申上べく候得共、不取敢書狀を以て申上候、靜子にも此よし宜しく御申傳へ被下度候、早々

次郎

御夫婦樣

●個人の營業を迫害す

鐵道管理局の暴戾

鐵道管理局が輿論を無視して暴戾なる鐵道運賃の値上げをなし專ら其收益を得んと企てつゝあるは何人も認むる所なるがこは鐵道自營上又止むべからざる所措として寬容するの點なきにあらず然れども其收益獲得に焦慮するの餘り貨物輸送上に就て個人の營業を迄迫害して利益を壟斷せんとするが如きは斷じて寬すべからざる所置といふべし日本麥酒會社が爲め今回麥酒四萬箱の輸入をなすにつき其輸送を仁川協同組に依頼し船便を以て仁川を經て各地に分送するの豫約成立し居りしが狡猾なる管理局員は此れを聞き込み本社に急派して遂に麥酒は釜山より鐵道便にて京城に送致する事に契約し協同組がなせる豫約を破棄せしめたり予輩は管理局の活動敏捷なるを賞するものあらばあれ苟も官營てふ大勢力を以て微々たる個人の營業を迫害して當局の暴戾は言語同斷なりといふべく尚ほ詳細は精探の上報導する所あるべし

●日本一美人の不運

畏き邊りの思召により乃木大將院長の職につき次いで松本源太郎氏下田女史に代りて部長に任せらるゝに及び學習院並に同女學部の校風大に見るべきものあり特に女學部にありては輕佻浮薄の風を戒しむるに努め居れるが先頃某新聞が美人寫眞を募集せし砌同部第三年級の末廣ひろ子(十六)など之に應募して審查の結果ひろ子は一等と發表せらるゝに至れり然るに乃木院長、松本部長、佐野學監其他の職員は此噂を耳にして大に喜ばず、さなきだに女は虛榮心の盛なるもの況んや女學生徒の如き上流の家庭に育ちしものにありては本人が虛榮心に驅られて自ら應募したるにはあらざるも他生徒等の取締上停學若くは諭旨退學の處分をなさんと目下頻に協議中にてひろ子の義兄たる江崎清氏に對し一應の質問を試み尚ひろ子外之れが應募したる同校生徒をも夫々取調べの上處分する筈なりと右につき松本部長佐野學監を訪ふて其意見を叩きしに兩氏共目下此件については確たる答辯をなし得ざるも松本部長は「私は個人として誠に氣の毒に思ふて居る實際見せ物にせらるゝ樣なものであるか或は之がため將來良家に片付く道が閉ざされて了ふかも知れない」と以て其意見を窺ふに足るべし又ひろ子が日本第一の美人として新聞紙上に歌はれし以來同校生徒間にはソレを嫉みてひろ子に種々の惡戯を試みるものもありと因にひろ子は當學期の及第を待ちて小倉市長なる實父末弘直方氏の許に赴く筈なり

●支那人に擲らる

福岡縣生れの者にて曙町に住へる西村彌次郎(二十)鹿兒島縣生れの者にて南山町二丁目に住へる時吉才藏(二十九)といへるは何れも伊藤組の車夫なるが是れまた揃ひも揃ひし喧嘩好きにて既に幾數回となく彼所此所にて爭鬪をなし警吏の說諭を受けたれども更らに懲り性もなく去る二十四日の夜同じ仲間の佐賀縣生れの光武又右衛門(二十八)を同道にて小公洞の淸國人料理屋同香園に至り油つこい肴を背めてアルコール入りのちやん酒を煽り扱勘定といふ一段になつて高いとか安いとか難癖をつけてランプを打ち毀し器物を放擲するなど亂暴をなせるより同園にては夫れ逃がすなと門戶を閉ぢて十名ばかりの支那人が二階に押し上り園主某の指揮の下に三人を取圍みて散々に打ちのめし遂に喧嘩坊も多數に無勢なれば敵對かねて又右衛門は手部に光藏は頭部及び手部に負傷し彌次郎も袋叩きにせられ遂に悲鳴をあげて援けを呼はりしより其の聲聞きつけて警察署に通告する者あり居合の警吏は唯事ならじと巡查を引連れ出張して見ると一人は裏庭に倒れて死を裝ひ一人は欄干によりて溜息吐息に若しみつゝあり一人は今尚は支那人に組み伏せられて藻掻きつゝありしより早速にこれを引分けて締の起りを訊問に及ぶと双方とも利益のことのみ主張して理非曲直の孰れにある乎分明せざるも西村は刃傷を受け居りて其の刃物は支那人側にては光藏が所持し居りて我等を斬りつけんとし却つて自から傷けるものなりといひ光藏は支那人が持ち來りて傷けたりといへるも是れまた他に證據立つるものなきを以て一先づ園主及び三名を警察署へ連れ歸り昨日尚ほ取調べつゝありしが其後如何にせしやら

●拳銃で威嚇す

福井縣遠足郡知之村平民目下當地南大門外に住へる土方の林松之助(二十七)といへるは三度の飯は五度喰ふ位の喧嘩好きで喧嘩をせぬ日は夜が寢られぬといふ痴漢なるが去る二十四日午後九時頃何所にて飲みしか微醉機嫌にて南大門通二丁目を通行の際韓人の房壽淸といへるが三人連れにて來かゝるに突き當り態と喧嘩を吹き掛けて己れ何故に己樣に突き當つたか返事によつては承知せじと懷中せる拳銃を取り出し筒口を向けたるに壽淸は怖れて逃げ去りたるより跡追つかけんとせしを壽淸が同道せし其の弟房壽吉及び金朝臣が松之助を抱き留め爰に三人巴となりて立廻りせる所へ巡查出張して取り靜めたるが松之助は拳銃を一時差押へられしといふ斯る亂暴者に兇器を携帶せしむるは寔に危險千萬のことなり

●妓生落籍の流行

中樞院顧問李址鎔氏が妓生奇花と云ふ者を二千圓を拋つて落籍したるが次で永宣君李俊鎔氏も一千圓を以て桂花と云ふ妓生を落籍し手活けの花と眺めしにぞ各大官等も之れを見て我れも我れもと落籍するを以て此頃は妓生の落籍は殆んど韓廷大官間の流行の如くなり韓人間には妓生の種が絕ゆるにはあらざるかと憂ふるものあり

●樂みの後に患ひ來る

去る二十三日の日曜を幸ひ兼て上官より叱り付けられ居る頭の熱を冷し一つには肉の樂みをもせんと思つて度支部のヨボ役人共三名は各其馴染の妓生三名を引張り出し西門外の泰元寺といふ寺に行き右の妓生を相手に終日淫酒に耽り思ふ儘に樂みしも飽き足らざるにや夜に入りてまでも酒や歌と巫山戲居りし所に嫉妬を起したのでもあるまいが野暮な泥棒殿現はれ出で何の容赦もあらばこそ妓生の銀釵二個と役人の衣冠を強奪つた上寺僧の金數十圓さへ奪ひ難有うとも何とも云はず跡白波と消へ去つたが奪られた妓生は泣面抱へてヨボ銀釵は如何して吳れるとアイゴー〳〵

●強盜百三十金を奪ふ

去る二十四日夜十時頃中署瑞麟坊十一統十戶季基昌方へ二名の強盜押し入り一名は短刀にて八十餘歲になれる主人の季基昌を脅迫し白銅貨百三十圓を強奪し逃走せりと

●自轉車泥棒

旭町一丁目の中川自轉車店へ屢々來れる一韓人あり去る二十四日にも自轉車修繕の爲め來れるが其の擧動尋常ならざるより派出所に報告し巡查出張して取調べ見ると西署五宮洞三十八統九戶の朴松文と名乘れるが自轉車及び靴泥棒の嫌疑あるを以て警察署へ連れ歸れり

●稻荷堂の新築

娼業繁昌の神たる稻荷大明神はこの韓國にも擔ぎ込まれ玉ひ既に南山にも鎭座ましますことながら爰にまた新町の第一樓にても此のほど稻荷堂を新築せしが神殿といふ名の下に大工も半額の手間賃で受負ひ棟上げの式も酒が半樽肴が半折何も彼も半盡しで仕上りしとのことなるが夫れでは大明神の御利益も半分であらうといふものあり否朝鮮のてんいい〳〵は日本の夫れの如く神通力が無いから其半分も如何しいものだといふ者もあれど鰯の頭も信仰からといへば祈らぬよりは增しなるべし

●南山町のボヤ

去る廿四日午後九時頃南山町三丁目齒科醫飯塚徹方より失火したるも隣家なる理髮業荒木半太三木長松及び家主富田某其他附近の者馳せつけ消止めたり原因は主人は他出中にて代診生三澤美雄が入齒に用ゆる金を二階にて溶解中器械が破裂し器械に盛りありし石油に火氣燃ゐ移り僅かに窓を焦したるのみなるが美雄は兩腕に微傷し折節同室に居たる下女高松シツ(山口縣熊毛郡佐賀村生)は腦部其他に負傷したりと

●雜誌●●●●●火柱發行

曾て元大東新報記者高濱天我氏及び高濱長江氏の經營にて文學雜誌火柱は本月十五日發行されたり卷頭には兒玉花外氏の火柱發行に對する宣言あり其意氣火柱の天に沖せんとするの槪あり其他新體詩短歌文學に關する記事を網羅し趣味津々として卷の盡るを覺へざらしむる好個の文藝雜誌なり(發行所東京府豐多摩郡澁谷村火の柱會定價十二錢)

●大日本高等女學會の發展

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ十三なる同會は通學に困難なる女子の爲めに高等女學講義を發行し通信教授をなすこと既に三年なるが其後益々會務を擴張し嚢きに二條公爵夫人會頭に靑木子爵夫人副會頭に男爵肝付兼行氏を顧問に有馬男爵夫人以下十數名の貴婦人理事又は幹事に就職各々責任を盡して會務に從事し組織を變更して慈善教育部を擴張し女藝教習所を附設し一方に講義錄を改良し尚學資に乏しき婦人の爲めに特に講義錄を無料にて配布し又は無月謝にて女藝の教授を爲す筈にて來る四月一日よりは新學期を開き東京府高等師範學校教授連の最も懇切に講述せる講義錄を發行する由なれば家庭獨學の女子の爲めには唯一の指針盤なりと

四月以後の韓國鐵道

本年四月一日より當局全線列車運轉時刻を改正し其の他京義、馬山線及釜山驛營業開始、內地との連帶運輸、賃金割引等左の通り實施いたし候

一 營業開始

從來の便乘線たりし京義及馬山線は京釜線同樣運輸の營業を開始し釜山に停車場を新設し草梁釜山間に於て運輸營業を開始す

一 釜山驛新設

一 連帶運輸

京義及馬山線各驛と帝國鐵道社主要驛相互間に於ては京釜線同樣旅客荷物の發着を取扱ふ

又新義州着連帶荷物も保税倉庫所在驛同樣の取扱を爲す

一 保税倉庫新設

平壌に保税倉庫を新設せらる內地發同地着荷物は京城仁川大邱着の如く釜山に於ける通關手續を光略し直送するを以て從前よりも一層速達することゝなれり

一 列車時刻

京釜間現行急行列車の外釜山新義州間直通列車を運轉す此の列車は京釜線内夜行とし全線約六百哩二十六時間半にて韓國の南北端を縱貫するものにして直通旅客は平壌龍山又は京城等に宿泊を要せず從來の行程に比し實に二日一夜を短縮せり京城仁川間、京城平壌間及釜山馬山間に於ても各一往復の列車を增發し其の他各地方的列車を適當に運轉せしめ交通上の便を圖る

▲釜山京城間急行(今回新造したる食堂車を連結し且つ乘客案內車掌及列車給仕を乘務せしむ)

北行
釜山發 前一〇、三〇
南大門着 後八、三〇
仁川着(永登浦乘換) 同九、三二

南行
仁川發(永登浦乘換) 前七、五五
南大門發 同八、三〇
釜山着 後六、三〇

▲釜山新義州間直通(全線一、二等車を連結し且つ乘客案內車掌及列車給仕を乘務せしむ)

北行
釜山發 後八、〇〇
仁川發(永登浦乘換) 前五、五〇
南大門發 同七、一〇
平壌發 後三、四〇
新義州着 同一〇、三〇

南行
新義州發 前七、〇〇
平壌發 後二、〇〇
仁川發(永登浦乘換) 同九、五〇
南大門發 同一〇、四〇
釜山着 翌前九、二〇

▲標準時 四月一日より各列車は總て韓國標準体に依り運轉いたし候 韓國標準時は日本より遲るゝこと三十分日本の正午は韓國の十一時半に當る

一 關釜連絡

釜山京城間急行列車は從來の通り釜山にて關釜連絡船に都合よく接續いたし候 右の外連絡船は帝國鐵道廳に於て新たに一艘を增加し關釜間一日二回宛運航さし釜山新義州間直通列車にも接續せしむ(但し直通列車接續の分は當分隔日とす)

一 乘車賃金割引

當局線と帝國鐵道廳線連帶驛相互間に於ては左の通り乘車賃金の大割引を爲す

▲二十人以上の團体 當局線共 賃金半減 (各驛にて取扱ふ 片道にても宜し)
▲割引往復乘車券 同 往復二割 (主要驛にて發賣す 單純御旅行に便なり)

右の外當局線內のみの御旅行に就ては定期、回數乘車券、京仁間特別割引券及溫陽溫泉行往復割引券等を發賣す 改正列車發着時刻の詳細及其他取扱上に就ては各停車場に就き御承知被下度候

明治四十一年四月

統監府鐵道管理局